



岡 津

平成29年度のキーワード
「つなぐ^{×3} そして、その先へ。」

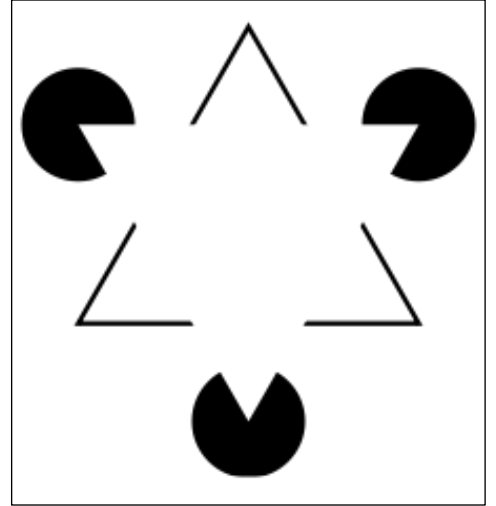
<http://www.edu.city.vokohama.jp/sch/es/okazu/>

学校だより 7月号
平成29年6月28日
横浜市立岡津小学校
校長 小竹 護
TEL 811-4104
FAX 812-4586

カニツアの三角形

学校長 小竹 護

ここに描かれているのは、一部が欠けた円と、くさび形になった線だけです。しかし画面の中央に、白い正三角形が見えると思います。本当は存在しない、この正三角形の輪郭は「主観的輪郭」と呼ばれています。イタリアの心理学者G.カニツアによって1955年に発表されました。その後の研究から、脳の後頭葉にある神経細胞の中に、主観的輪郭の認識にかかわっているものがあることが1984



カニツアの三角形

年に報告されました。つまり主観的輪郭とは、私たちの脳が作り出した輪郭です。

さて、主観的輪郭により作られた三角形は、すこし手前に浮き出て見えると思います。白い三角形が、三つの円と、逆さまになった正三角形の上に乗っているように感じられます。主観的輪郭は、立体感、つまり奥行き印象をもたらしています。次に、主観的輪郭により作られた中央の白い正三角形は、背景よりも、すこしだけ明るく見えると思います。背景も、主観的輪郭で囲まれた部分も、まったく同じ白色です。あたり前のことですが、白色が一番明るい色なので、あるディスプレイ画面にでている白色よりも明るい色を、同じディスプレイ内に表示することはできません。しかしながらこの錯視は、そのような物理的な限界も超えてしまいうちから力をもっているようです。

このように、主観的輪郭から作られる面は奥行き感や明るさの印象を変えてしまうため、実際の輪郭で囲んで作った面よりも、面として強い印象をもたらします。しかし、なぜ主観的輪郭が見えるのか、それについてはいろいろな仮説がありますが、実はまだわかっていません。主観的輪郭は、その見かけは単純なのですが、とても複雑な視覚のしくみが関係しているようです。今後の研究で、なぜ錯視が生じるのか、新しい発見があるかもしれません。私たちの脳にはまだまだ解明されていない素晴らしい力がたくさん隠されています。人間の力はもっと発展できる余地がたくさんあるようです。(参考文献:イリュージョンフォーラム 錯視)